

オーディオ実験室収載

DMR-UBZ1 の展開(10)

—BPODCH 受信(10)—

1. はじめに

前報(9)において前報(6)の考察において設定した対策が完了しましたので
DMR-UBZ1 による BPODCH の視聴の音質と PC による BPODCH の視聴の音質と
比較してみます。

2. BPODCH の視聴方法

前報(6)の方針は次のとおりです。

- ① DMR-UBZ1 の前のルーター子機に 【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】 を適用
- ② ①のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ③ CTUの後のルーター親機に 【iPurifier DC+ Red Barrel Cable】 を適用
- ④ ③のRed Barrel Cableにアモルメットコアを装着
- ⑤ DMR-UBZ1はルーター子機に直接接続しているので、ルーター子機にぶら下
っているBuffaloのオーディオグレードのスイッチングハブを介して接続
- ⑥ DMR-UBZ1に入力するLANケーブルを、Buffaloのスイッチングハブに付属し
てきたLANケーブルからインフラノイズのLANリベラメンテに交換
- ⑦ DMR-UBZ1に入力するLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコア
を装着
- ⑧ PCに入力するLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコアを装着

DMR-UBZ1については、①から⑦までの対策が完了しています。

PCについては、①から④までの対策が追加されています。⑤は従来からこのルート
の配線を行っており、⑥も従来からLANリベラメンテを使用していました。今回は、
⑧のPCに入力するLANケーブルのLAN入力端子付近にアモルメットコアの装着を
追加しました。

以上から、次の3ルートの比較を行います。

- 1) DMR-UBZ1のS/PDIFディジタル出力をDACU-500経由でSonica DACに入力
- 2) PCのUSB出力をiPurifier2 (TypeB) 経由でSonica DACに入力
PCはSSD使用のW10機を使用し、1) と同様192KHzにアップサンプリングして
Sonica DACに送り込みます。
- 3) PCのUSB出力をSWD-DA20に入力
PCはSSD使用のW10機を使用し、1) と同様192KHzにアップサンプリングして
SWD-DA20に送り込みます。その際、Bulk Pet伝送の設定を行い、かつSWD-DA20

にはGPS-777から192KHzのクロックを入力します。SWD-DA20の電源はiPowerに替え、iPurifierDCとアモルメットを装着しています。USBケーブルもUSBリベルメンテにしています。

なお、PCとSonica DACにはPSI-2000を敷き、SWD-DA20を敷いています。

以上のように各ルートとも、これまでの成果を取り入れた上で、比較してみようとするものです。

3. BPODCH の視聴結果

上記3ルートの対策の結果、3ルートの差は著しく狭まってきており、ちょっと油断して聴いていると違いが分からなくなるほどです。

2) と3) はともにPC経由の再生で、DAC違いですが、SWD-DA20もクロック入力とBulkPet伝送の効果に加えて、今回のルーターの電源対策が効いてこれまでにないレベルに達しています。その違いを敢えて述べますと、2)のSonica DACの方に静寂感があり、音の余韻までがしっかりと聴こえてくる点で軍配が上がります。

では、1)のDMR-UBZ1と2)のPCの比較はどうかというと、音の肌理は2)の方がクールで細かく、ポリフォニー音楽のように微妙なニュアンスを捉える向きにはむいている感じがします。一方、1)のDMR-UBZ1の方は、2)に比べればウォームトーンで音に厚みが出ますので、大編成オーケストラの迫力に魅力があります。

4. まとめ

設定した対策の結果、DMR-UBZ1によるBPODCHの視聴の音質はPCによるBPODCHの視聴の音質に近づき、若干の音質の違いは曲に応じて選択することが望ましいレベルになりました。

以上